

第2回 信州みちビジョン検討委員会 議事録

開催日時：平成29年9月20日(水) 14:00~16:00

開催場所：長野保健福祉事務所3階 301~303号会議室

【議事次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議 事
 - (1) 基本方針等について
 - (2) 整備効果等について
 - ・資料1：事務局説明資料
 - ・資料2：第1回検討委員会の議事録
- 4 その他
- 5 閉会



委員会の様子

【議事録】

(高瀬委員長)

議事に入りますが、議論の対象を絞って議論をしていきたいと思えます。

まず、信州みちビジョンの構成の素案、2頁に信州のみちビジョンの構成の素案と書いてあると思えますが、まず基本方針等について、みなさんご意見ご質問ありましたらお願いします。

(武者委員)

最初ですので議論のたたき台になればと思えます。大きくは三点あります。

ひとつは、現状認識の枠があるのかなという、もはや浮いている状態ではないかと思えます。道路関連の課題という枠があれば、ここに吸収してしまった方がいいのではと思えます。

世界規模の動き、日本国内の動きというのは、組み込む必要もない気がしまして。ただ、長野県の特徴というのはひとつ必要な、押さえておくべきことですので、これを道路関連の課題、道路関連の現状認識ということになるかと思えますけれども、例えば長野県であれば周辺地域の公共交通という課題辺りは、2番辺りに入ってくるのでしょうか、持続可能な社会への移行ですか、あるいは3番関連というやはり、山岳地域が多いということ自体が長野県の特徴でしょうし、大都市圏へのアクセスが良い、裏を返せば大都市圏へのアクセスをいかに活かしていくかという辺りは4番の社会の広域化・国際化辺りに入ってくるのではないかなと思えます。

2点目は、現状認識というか課題を考えると、道路関連予算がこれからどんどん逼迫していくという一番大前提のところを認識しなくてよいか。そこをまず前提としないと、色々と空回り気味の議論になってしまうのではないかな、ということをお慮します。

もちろん、例えば県土の強靱化は必要なのですが、無限に予算があるわけではない。その中でいかに強靱化を進めていくかという発想に立たないと、なかなかこうバラ色のビジョンしか描けないのではないかなという心配をします。

3点目は重点分野の1番なのですが、健康長寿の暮らしを支えるみちづくりというテーマになっていますが、皮肉な言い方をすれば特定世代のためだけの重点分野としてよいかどうか。

中身を見ますと、1番と3番は、健康長寿というよりはむしろ低炭素化で、低炭素まちづくりに関するお話だと思います。そうすると、2番もまあ高齢者というものもあるのですが、いわゆる障がい者等も含めて交通弱者というものがたぶん対象だと思います。そう考えると、全体として、健康長寿の暮らしというより低炭素の暮らしと言った方が色々含むんじゃないか。もちろん低炭素のまちづくりの中には高齢者等が使うという問題は当然含まれていますので、そういう意味では低炭素の暮らしを支えるまちづくりの方が、題名として相応しいかなと個人的には思いました。

とりあえず、以上3点です。

(事務局)

いただきましたご意見の、1点目ですが、現状認識のところは道路の課題の方に入るところがあると思いますので、検討させていただきたいと思います。

課題の中で道路予算の関係でこれから厳しくなっていくというところを認識しなければいけないと思っております。基本方針の中でも取捨選択という言葉を使っていて、何でもかんでもやっていく意味ではないことも書いてあります。ひとつこの中に予算のことが書けるかどうか検討させていただきたいと思います。

3点目の重点分野の健康長寿の暮らしの部分ですけれども、左側で将来像の長野県の5か年計画の中では健康長寿という言葉を出しているの、あえてこれを出させていただきました。ただ特定のお年寄りということではなくて、長野県の皆さんということでその下にポツ(・)があります、子供からお年寄りまで、ということで、一応ここで県民全体ということを含ませていただいておりますけれども、表現的に先程の低炭素という言葉も検討させていただきたいと思います。ただこれから長野県の5か年計画が固まってきますので、その中で出てきたキーワードというのは外せないかなと思っておりますので、検討させていただきます。

(高瀬委員長)

武者委員からひとつ出てきた、予算が少なくなっていく中でという部分を、事務局サイドとしてはなかなか書き辛い部分ではあるのしょうけれども、現実としては、そういう意味で選択と集中と書いてあるのですが、もう少し何か。例えば最近ですと、道路のスリム化が必要なところを、必要ないところ、そのまま良いと言うのもおかしいんですけども、広すぎる場所はそれなりに広くやっていかなくとも管理のお金が掛からないようにするとかいう、そういったことも押さえているので、そういうところも考えられるのではないのでしょうか。最後には質問になってしまいましたが。

(事務局)

今スリム化というお話をいただきました。まず課題として、武者委員の方からいただきました予算の関係、少しここに実際の道路予算というような観点で加えることも可能という気がします。それからあと、それを前提として進めていく上でのスリム化ということにつきましては、「つなぐ」の中で道路の役割に応じたネットワークの構築とか、そういうところで道路の役割、レベルの高い道路から低い道路までそれぞれに応じたというような意味合いを出すことでそのような意味合いが出るのかなというふうに現時点では思っております。

(高瀬委員長)

たぶん今後も、その限界集落の方から街の方に人を集めてくるように対応する道路ということになり、どちらが先にやるのかという、よくある話になります。なかなか見込めないというのがありますが、何かそういったことも考えられるとよろしいのではないかと思います。

他にご意見、よろしく申し上げます

(柄澤委員)

今、武者委員の 2 つ目の予算の関係、私もその件についてなのですが、前回もお話させていただきましたが、建設業界で非常に労働力がこれから不足してくると思われれます。そういう中で、建設業の関係も国の方で ICT を活用した方法ですとか、そういったことで省力化を進めるということもお聞きしています。何か国の方から方針というかそういうものが県の方に示されているのかお聞かせいただきたいと思います。

(事務局)

ICT、IOT 等の関係、工事も生産性という形で、ご指摘ありました。生産性につきまして、国の方でも ICT を使った測量ですとか、それに基づく工事の施工ですとかそういった分野で試行段階に入って、県でもいくつかの工事で試行を始めているような状況になってますので、おそらく、このような進め方というのはこれから更に広がっていくものと考えております。

道路のみちづくりの部門で ICT 技術について触れている部分というのは、資料の 3 頁の、(2)車重視の道路網整備から誰もが安心して移動できる道路環境整備への中の、三つ目の黒い三角(▶)のところで、老朽化等に対応するインフラメンテナンスの強化というところで、2 番目に ICT 技術導入による道路管理の効率化等といったとこで部分部分に散りばめた感じでは入れているつもりではございます。

(高瀬委員長)

あくまでも道路管理ですね。予算的な部分としては新設に比べたらそこまで大きく問題はないと思うのですが。

今のお話ですとたぶん(1)の効果的な道路網の構築っていう、どちらかという今ある部分、道路をどんどん造っていく、という風な部分があるので、そういうところに少し入れていくことをしてもよろしいのではと思います。

(藤澤委員)

バス協会さんがお見えいただいたからという訳ではないのですが、この間、知事の会見でも公共交通の維持が大変だということで仰ってまして、当村も路線を維持していくことが大変でございます。今、特別交付税 8 割戻ってきていますのでどうにか維持をしていけるんですが、これがどうなるかということで。そういう点は畑違いなのかこちらの方には全然載っていないんですけど、そこはどのようなものなのでしょう。それがまず 1 点です。

もう 1 点は今低炭素の話がございましたが、ヨーロッパの方は 2040 年にガソリン車を全部止めて EV 車にしていくという流れがございまして、EV もその充電器みたいなものを当然道の駅にはどんどんと整備していかなければならないと思うのですが、そういうことも一切載っていないんですけど、そちらの方の方向性はどうかお聞きしたいと思います。

(事務局)

公共交通の関係になりますが、本ビジョンはみちビジョンということで、どちらかと言うと道路建設、道路管理に関わる方向性を示すビジョンということで作っているということがございます。しかしながら、実際には公共交通に関わってくる部分が沢山出てきますので、今回触れられるところとしましては、3 頁目をご覧いただきまして、健康長寿の暮らしを支えるみちづくりの中の(2)車重視の道路網整備から誰もが安心して移動できる道路環境整備というところで一つ項目を足ささせていただきまして、バスの維持についてはこちらではできないんですけれども、公共交通と連携するという意味で、上の黒い三角の三つ目のポツ（・）のところで、交通モード間の連携強化ということで、例えば主要駅へのアクセスの道路ですとか連結の強化をすとかバス路線の環境を整備してあげることで、こういった取り組みをしていくべきだということで書かせていただいております。直接的なバス路線の維持についてはまでは踏み込めませんが、間接的ですが、こういった視点として書かせていただいております。

EV ステーションの関係ですが、当然自動運転とかも関わってきますけども、そういった整備、これからの整備は大事だと考えております。単語として EV という言葉を入れてはおりませんが、当然やっていかなければならないと思っております。実際、つけている道の駅もたくさんあるところがございますので。

(藤澤委員)

そうしますと、EV ステーションというのは、今回は載せずにいくということですかね。今、流れ的にはもう、防災拠点、道の駅として大事ですけど、EV ステーションもなるべく多く整備していくような、この 10 年間はこんな流れもなければいけないんじゃないかなと思いますけれど。公共交通もこういう形で掲載するしかないのかなとは思いますが。こちらは交通政策課の関係ですので、本当に大変かとは思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(事務局)

今ご指摘いただきました EV ステーションの関係は、今回この資料の中ではっきりした形で盛り込んでいないですが、これからの時代、これからを考えると、ほぼ確実に必要になってくるというところもありますので、この資料、ビジョンへの書き込み方につきまして検討させていただきたいと思ひます。

(高瀬委員長)

単に EV に展開するだけではしょうがなくて電気をどう作るかという自然エネルギーとか何らかの政策、道の駅では、最近は何かそういう自然エネルギーとセットでいかないと、結局ライフサイクルを CO2 で考えるとそんなに変わらなくなってしまうのでその辺も少し検討されたいかがかかなと思ひます。

(中村委員)

私の家の前の家が EV ステーションをご自分の家で持っているんですけども、ああいうのを将来的に家庭で作るような場合、補助金とかそういうのは考えていらっしゃるのでしょうか、とい

う質問が一つ。

一本の道というのは本当に人の生活を全て変えてしまうと思います。栄える町もあり、それ一本で栄えない町もあるというのを、つぶさに見ています。部分的な恩恵は今のところ私は受けていないので、今一生懸命繋ぎましょうという運動をしています。もし今の中部横断自動車道が、その先も静岡まで繋がった場合には恩恵を受けられます。道というのは昔から考えてそこに道ができたから栄えたっていうところか色んなことを聞くのですけれど、そういったものも考えながら設計するというのはビジョンの中に取り入れていかれるのでしょうか。

(事務局)

まず1点目のEVステーションの補助の関係でございます。今現在、市町村でそういうような補助をやっているところがあるか、調べないと分からないのですが、今回のみちビジョンの中ではそういった制度のことについて触れる予定がないということと、その普及ということは書き表していきたいと思うのですが、具体的などは県なり市町村なりで考えていくと思います。道によるネットワーク、繋がることでどんな効果があるかを考えているかということで、道路というのは当然ながら繋がって効果が初めて発揮されるということになりますので、例えば中部横断道の話に関しても、当然静岡まで繋がったときにどういう効果が出るかというのは考えておりますし、それを目的でこれからも県としては推進していきたいというふうに思っているところで

(河野委員)

一番左の列の将来像の1つ目「世界に貢献する信州」のところで、「世界との相互依存が深まる中」にある『依存』という言葉は、現状と少し違うので、交流とか連携などの表現にした方が印象としてはよろしいのかなと思います。

重点分野の2番目、県土の強靱化を担うみちづくりのところなのですが、その下にポツ(・)で「多様な災害に備え、いつまでも安心して住み続けられる地域を目指す」という言葉でタイトルを説明されていますけれど、恐らく強靱化ということを考えたときに、一番肝となるのは、備えた上でそれを適切に運用し、一刻も早く回復することが出来る地域であるということがそのレジリエンスであるという意味合いですので、そのワードが入っていることの方が結構重要なという気がいたしました。

それと、具体施策の話に少しここで入りますが、特に、災害に遭った地域がそのあと回復していくのにコンセプトとしてビルドバックベターという言葉がよく使われます。災害に、特に道路などは土砂崩れ等がよくあることなのですが、それに対して一刻も早く回復するということに、復旧するだけではなくて、より強いもの、より役立つものとして改修をしていくとか、災害を経験としてまた次に生かすというような視点が今の国際的な流れですので、そういう視点がどこかに入ってくると良いと思います。

(事務局)

将来像と県の強靱化のところで、説明文の言葉につきましては検討させていただきたいと思

います。それから迅速な復旧とか、さらに強いものとして復興回復させるということにつきましては、このあと取り組みの中の黒い三角の所でそういった言葉を盛り込めれば良いと思いますので、検討

させていただいて出来る限り調整させていただきたいと思います。

(倉島委員)

今回のみちビジョンの素案が、全般的に非常に言葉が堅苦しい表現で、今後この案を固めてパブリックコメントをするということになった時に、果たしてこういう抽象的な言い方で皆さん理解出来るのかな、と思いました。

私も実際この重点分野の取り組みを見たときに、これが実施されたときに結果としてどういう形になるのかというのが全くちょっと見えないものですから、どの程度細かく触れることが出来るのかというのはありますけれども、表現的にももう少し分かりやすい表現ができないかなと思いました。以上です。

(事務局)

少しでも一般の方にわかりやすい表現にできるところは、もう少し検討させていただきたいと思っています。

(高瀬委員長)

オブザーバーの方も積極的にご意見いただけたら有難いです。よろしくお願いします。

(三井委員)

重点分野のところで入っていて、さらに今日もご意見が出ているように、より将来の世の中の変化を先に取り込んでいくことが、長野ビジョン、信州の道のビジョンとしては一番大事な気がします。先ほどEVステーションの話とかありましたが、例えば歩いて楽しめるような街並みとか、あるいは安心して歩けるような街並み、というような部分からすれば、ガソリン車はそのエリアには入れないようにするとかそのようなことも、道そのものだけではなく、街づくりになるが、世界には例があるわけですから、そういうくらいを目指すべき、本当の最重点分野、ビジョンとして示したいと感じます。1,2,3という重点分野、大事なのですが、今日最初にも出ていましたが、道に限られる予算というようなことを類推すると、10年20年あるいは30年かけて少しずつ進めていくことになるのではないかなというのが心配です。集中的に予算のかなりの枠を使ってでも、こういった、信州だからこそ、というような道路の整備あるいは新しい道路の活用というようなものをやはり重点分野の前の最重点分野といいますか、そういったもので示していければ県民の皆様からみても夢が持てて、長野県が進んでゆこうとする方向がもっとわかりやすく出来るのではないかと考えています。

(事務局)

これからもう少し夢のある目標を、というようなご指摘かと思っています。今回ここにお示ししていますのは比較的現実的な視点で書いていますので、内容的に夢のある部分までは難しいのですが、先ほどのわかりやすいものをというご意見も含めまして、もう少し夢を膨らませるような表現を考えていければなと思っています。

(高瀬委員長)

お願いします。たぶん皆さんその部分がすごく気になっているところだと思います。

おそらく、現実的の部分が、今こういうデータがあってこれをこれだけ改善する、今どっかでこういう取り組みをやっているから、こういう取り組みをする、というのがあって、それを現実的とするのかというと、それでは安易な話になっちゃいます。現実的に考えて夢のあるような、先ほど倉島委員が言われたように、それぞれのことをやって、何が良くなるのかこれがどうなるのか、そこが見えてない。手段ばかりあって、この結果を達成するというのに固執しているようにみえて、それがあることによって長野県がどんなふうになるかというのが見えない部分がある。そこに解離があるのではないかと感じました。

他にご意見ご質問ございましたら、お願いします。

(中村委員)

風景のいいところ、景色のいいところっていうようなお話があったのですが、女性みちの会で、東北の方達なので、高齢者は続けて歩くことが出来ないの、道のところに休む腰掛みたいなものをみんなで作りましょうという運動をして、とても評判が良かったと聞きました。その腰掛が大したものではなく、手作りのような腰掛でした。お金のかかったしっかりした椅子じゃなくて、腰かけられるものを女性が作ったということです。みちビジョンでそういう皆がひと休みする場所っていうのは出来ないのでしょうか。よく田圃の土手で年寄が腰をかけて、何してるのかと聞いたら、ひと休みしてるんだと言って、土手に足なんかをかけて、そういうのをテレビで見たことあるんですけど、交通の邪魔にならなくてちょっとひと休みできるようなところが、道路のどこかに作れたらいいというふうに思います、なんとなく微笑ましいような風景です。

(事務局)

今回お示ししました重点分野というところで、健康長寿の暮らしを支えるみちづくりというのを目標にひとつ掲げさせていただいています。その中に(3)ですけれど、生活拠点の広域化・郊外化に対し歩いて暮らせるエリアも再構築ということで、歩いて楽しめるエリアも作りたいということ掲げさせていただいております。具体的には歩きたくなるまちなかの整備ですとか、まちなかの賑わいを支援する道路の環境整備ということで、こういったことをここで目標としていますので、具体的にはどういうところに腰掛を作るとかは、また別なのですが、そういった目標ということで書かせていただいております。

(足立委員)

道路関連の課題が挙がっていますが、これは長野県の総合計画の項目のうち、道路関係のものを抜き出してまとめた課題ということでしょうか。といいますのは、例えば2番目の課題、持続可能な社会への移行というところで、拡散地域構造が低炭素化のネック、とあるのですが、「拡散地域構造」って我々普段使わない言葉です。4番目の社会の広域化・国際化には、生活圏域拡大と地域拠点衰退とあるのですが、「生活圏域拡大」なのか。その辺はこの検討の中で列挙したのではなくて、県の総合計画の中から抜粋してまとめた課題ということなのではないでしょうか。

(事務局)

道路関連の課題につきましては、今まで道路の状況等をみましてこちらの方で課題として整理し

たものになっています。ですので、言葉自体は県の5か年計画から持ってきたものではありません。今回のビジョンの中で書いた言葉であります。単語としてスペースの関係があったもので詰めたような言葉になっていて普段聞きなれない言葉があることについてはすみません。言葉については少し検討させていただきたいと思います。

(武者委員)

一番根っこにある問題は、財政的な視点がビジョンに欠けていることがいろんなところで問題になっている気がします。少なくともそのあたりの考え方が、つなぐ、まもる、いかす、に入っている必要があると、例としてそれぞれひとつずつ申し上げます。「つなぐ」については、やはり高瀬委員長が言われたようなコストダウンに関する取り組みが入っていないことに違和感があります。それは技術開発的な側面もあるかと思えます。「まもる」については、次のページに、医療施設の人口カバー率のところにカーラー救命曲線というのがありますが、いま問題にあるのは、輸送にどのくらい時間がかかるかというより、地方の場合は高齢単身世帯が増えており、救急車を呼ぶ前の時間にどれくらいリードタイムがあるかがむしろかなり効いてくる。例えばこの救急救命という大義のもとに100億かけてこういった道路を整備するという話が一見あり得るんですけど実はその100億あればむしろ過疎地域のコミュニティ対策に100億使えばどのくらいのことが出来るんだ、という話になるわけです。確かにここの部局の話と関係はないんですけども、これは他部局といかに連携していくかというところで実は財政的にはすごくコストダウンになるんだ、というような話もあるわけです。道のことじゃないのだけれども実はビジョンの中に考えるべき要素なのではないかなというふうに思いました。「いかす」の方で、ひとつ例を挙げますと、これは組み合わせのさせ方ということを行っているわけです。その中で結局道路のストック効果をいかに高めるか、あるいは見える化をするかということをやっと国交省も言い続けているわけで、このあたりの文言というか要素が、「いかす」の中に全く入っていないところに違和感があります。いずれにしても、財政が縮小する中で、道をいかに造っていくかというあたりが基本方針にもう少し盛り込まれて良いのかなというふうに感じました。

(事務局)

財政視点のご指摘は、まさにもっともなご指摘かと思えます。課題のどこに入れることと、今それぞれ、つなぐ、まもる、いかす、でのご指摘をいただいたようなところは参考にして、そのような視点を入れたこれからの進め方というのを盛り込んでいきたいと思えます。

(高瀬委員長)

基本目標が未定となっていますが、どういったことをイメージされていますか。それがあまりイメージされていないから、現実的な部分、先ほど仰ったようになってしまうのか、委員の方も言われていたこの重点分野もあるが、なんでこうなのかなというのもやっぱり目標が決まっていないと、そういった課題が出てくるのではないかと思います。ここの基本目標ってどのようなのをイメージされていますか。

(事務局)

今回基本目標を未定という形で、それ以外のところを議論していただいているところでございます。オーソドックスなやり方でいけば、ここをまず決めてそこから派生をさせていくという形が

あるべきひとつのやり方かと思いますが、今回の場合、基本目標を作ることで、選択が難しい状況になるのかなというようなことで、出来るだけ内容をある程度議論したうえで、それをこうまとめるような形で目標を作りたいという思いの中でこういう未定のまま議論をしていただいているところでございます。まだ目標で具体的にどのような言葉がでてくるかといういま手持ちのものはないんですが、今日までご議論いただいて内容的なものはだいぶ浮き上がってきているように思いますので、次回運営委員会くらいまでには、なんとか目標のいくつかの案をまとめておきたいと思っております。

(高瀬委員長)

今回素案を出して、重点分野がこの3つだというのは、たぶんその先にある目標があるからこそ、この重点分野の3つを出している。ということだと思うのですが、それをなくして、会議に繋がるだけという、今回そういう話になってしまうのですけれども。これをこの3つの重点分野として決めるというとは、何かこうある程度目標があったのではないかと思うのですが、そこは、なしで考えられたということでしょうか。

(事務局)

この3つの重点の抽出した考え方というのは県の5か年計画の方の一番左の将来像をある程度描いた中で、道路が関わる分野につきまして、重点分野という形で選んだということでございます。

(高瀬委員長)

素案に出ている重点分野は、健康長寿の暮らしを支える、県土の強靱化を担う、観光や産業の振興を進める、ということ、低炭素、財政に関しては、重点分野というよりもそれぞれの中で散りばめていくというところ、ここの辺りのご議論ある方いますか。

低炭素化ということを経済長寿の代わり、または併記するということが出来ないこともない、これに関してご意見等ございましたらお願いします。

(足立委員)

長野県の信州みちビジョンということで、3つの重点分野でまとめていただいたんですが、道路の機能というのは、それぞれの段階によって違うものです。例えば幹線道路とか高速道路は、いかに早く大量に他のエリアと結びつけるかという機能が重要ですし、生活関連道路、山間地域に入っていくところと、住宅があるところでは、特に災害ですね、観光のエリアは、道路とまわりの景観が一体となして魅力を持つという、それぞれの道路によって役割が違うのですけれども、全部性質的な形のもので一括してあるので、入りにくくなっているような感じもします。それで信州みちビジョンって一般的に言った場合には、今、県として整備している幹線道路ってありますね。そういうものを全くあげなくていいのかなという感じがします。長野県はこれからこういうところの道路を今整備していますよっていうものが、あっていいのではないかと、長野県でまだこういうところが整備足りないの、こういうところをやっていきますと。ここに挙げられているように、観光についてはこういう視点で整備をして、移動が楽しくなるなど、その周辺の魅力をより一層高めるようなみちづくりを目指します、と。それから生活関連も1番にあたる場所ですね。1番とか2番の災害の関係というような切り口の方が分かりやすい感じがします。高速

道路、準高速道路も全くないと寂しいような気がするのですけれど、そのあたりはどうでしょう。

(事務局)

今、高速道路等の、いわゆる高規格の道路についての記載がないという、ご指摘でございます。みちビジョン自体、主には県管理の道路を対象に考えておるのでございますが、ただこの県内外をスムーズかつ効果的につなぐ、という中で、例えば道路の役割に応じたネットワークの構築、このようなところで、そういう高規格のものも、県が直接造るわけではないのですが、県がそれをしていくという役割もありますので、そういうところで高規格道路も眼中に入れていくというようなことで考えております。

(高瀬委員長)

道路役割に応じてという話ですけれど、さっき階層化ネットワークという話がありまして、いわゆる国道・県道・市町村道、という分け方ではなく、いわゆる人が使っている、使い方に応じた国県市関係なく、役割に応じた階層にして、ネットワークを組み直していくという考え方があるという意味で使ったんですけれども。そこに今のお話が入ってくるのか、分からないんですけれども、たぶん分野をこういう風に分ける方法もあるし、足立委員が仰ったようにすごくわかりやすいのは、要は段階に応じた、生活のレベルに応じた、それからもっと上の高速道路を使うようなレベル、階層それぞれの層があって、それぞれに対してどうというようなアプローチをしていくのか、というような、たぶんおそらく拡大解釈ですけれど、そういったみちづくりがあってもいいのではないかということだと思います。そうすると、長野県はこんな将来像ですよってことが出しやすいのかもしれないです。

(武者委員)

今話を引き受けると、これ図の左側、将来像から展開して、重点分野が出てきているわけですが、これ最後にもう一度まとめるような形で、じゃあ長野県民ひとりひとりの生活にとって、こういうことをすると一体ひとりひとりの生活がどう変わるのかというようなものを最後にまとめとして提示するというのは、最近のビジョンなんかでも見かけるやり方で、これ分解していくと最終的にはある部局の施策事業に落としこまれるようなイメージなのですが、それで終わりではなくて、もう一度それを集約して、じゃあ一人ひとりの生活にとってこの重点分野はそれぞれ、どう生活を変えるのか。というまとめをするとさきほど足立委員が言われたような、生活をするものにとって、それぞれの分野がどう変わるのかということですね、認識が出来るんじゃないかなと思います。それがおそらくひいては基本目標のあたりと関わってくるのではないかなという感じもします。

(事務局)

今の最後の、これもまとめたものをということですが、少し検討させていただきたいと思います。

(高瀬委員長)

この3つの重点分野につきまして、こだわることでもないかもしれないんですけれど、これをこういう方向性で進めていくのかそれとも別のアプローチで進めた方がいいのか。というところのご意見をいただきたいのですけれど。

こういった重点分野3つの、健康長寿、県土強靱化、観光や産業の振興という、このあたりについて、ご意見をいただきたいです。

(藤澤委員)

健康長寿の暮らし、県土の強靱化、観光や産業の振興というものは、次期計画の目指しているものだと思います。やはりこれは5年間の次の総合計画の目指すものですから、それを重点分野として抽出して、それを支えるためにみちづくりをこのようにしていけばどうか、ということで、重点分野にしてもいいのではないかな。と私は思います。これ以上というところのように表現していいのかわからないのです。長野県としての次期5か年計画は本当に、健康長寿、県土の強靱化、観光産業の振興だと思うのです。そのへんが重点項目になってきていて、それにみちビジョンも連携した方が、私はいいと思います。

(河野委員)

観光やプロモーションのビジョンの策定をする際にも、やはり地域の総合計画の一番目指す将来像というところからブレイクダウンして落としていくのが一番シンプルでわかりやすい。さらに、事業が紐付きやすい、ひいては事業を行い、実際にこれを運用していこうというときに予算がとりやすい、という一番重要なポイントもあります。このたてつけで、総合計画から落としていくことで、重点分野の柱を決めるということに関して個人的には異論はないです。この重点分野の3つというのも、シンプルでいいのではないかなと、個人的には思っていますが、先ほど武者委員が仰ったように、この重点分野は県の大きなところのビジョンを達成するために道という立場から何ができるかということジャンル別に示しています。そのために道がやるのがそれぞれの重点分野の中に分散して入ってしまっている、では翻って、道に対してどんなことをするのかを考えたときに、この重点分野から落とし込みにくくなっている、想像がしにくくなっているという弊害もでてくる。この重点分野の後に、最後にもう一度きちっとまとめなおすということはわかりやすさという観点から有用でしょう。最近は特に、この課題や現状認識のところ記載がありますけれども、社会自体が変わっていることによって、これまでの時代よりも、ある1種類の道が担う役割が、時と場合と相手によっていろんな顔を見せていくので、こういう道はこうするっていうふうに道のタイプから役割を明確に定めにくい時代になっているし、これからはもっとそうなると思っているので、例えば観光に使う道だったらこうって言えないと思うのです。今回いただいている資料の5ページで出しているような、眺望メインの観光とか自転車で走りやすい道っていうのは、この道を通ること自体が観光行動になるような道だけを今挙げていらっしゃいますけれど、観光地と観光地をつなぐ普通のただの山道っていうものをどれだけ楽しませるか、ということもはっていますし、地域の土地勘がない方が、ややこしい道をナビで示されたとしてもそれに不都合を感じずに通れるかということが、観光を支える話になってきます。このように、役割を明確化するのは、逆にそれをやり始めると複雑化することもあるので、整理の仕方としてはこの筋でよいのではないかと思う次第です。

(高瀬委員長)

おそらくこの基本方針の「つなぐ」「まもる」「いかす」からくると、おそらく重点分野はこの3つになる。ただ、中の項目としては、先ほどから議論されているような低炭素や財政それから強靱化の部分も少し補足する、補足というか項目立てする必要があるのではないかとかそういった

部分については少し検討、少しというか大きく考慮していただければと思います。

それから最初に武者委員からいただいた現状認識の部分でこれが必要かというところなのですが、これはたぶん要らないということではよろしいのではないかと思います。では、これは外していただきたいと思います。

それでは重点分野の部分3ページから5ページにつきまして、先ほどからもご意見いただいているのですけれども、この点につきましてご意見ご質問等ございましたらお願いします。

オブザーバーの方、積極的なご意見をいただけますでしょうか。

(長野国道事務所 森副所長 [オブザーバー代理])

健康長寿の暮らしを支えるみちづくりということで、景観等に配慮した取り組みの中、無電柱化ということでもありますけれども、無電柱化には防災上の機能もある、その辺についてはどうでしょうか。もうひとつは、予算のお話も出ていましたけれども、防災関係で、道路の構造に関してメンテナンス等は法律で法令化され、定期的に行っているわけです。今後はセカンドステージで、どんどん予防保全で予算もかなり修繕等にかかってくるわけですから、その辺で予防保全として集約化とかそういったことも、管理施設自体をうまく具合に知恵をだしていく方法もひとつ考えられるのではないかと思います。

(事務局)

無電柱化の件でございますが、今回はこの健康長寿の中の景観の関係で入れさせていただいているところでございます。お話いただきましたとおり防災のところでも該当するところだとは思っていますが、それぞれのところを書いていくときりがなかったもので、今回は代表的なことということで記載させていただいたところでございます。

これにつきましては、再度また検討していきたいと思っております。

(松本保全・サービスセンター 築山所長 [オブザーバー])

道路の防災というのを考えた時に、道路区域内の橋梁をしっかりと耐震化して法面をしっかりと補強したとしても、最近の災害は区域外が原因で発生するようなどころがあります。そこも今後の課題、いわゆる道路区域の外から道路の災害というのも今後は考えていかなきゃいけないというふうに最近つくづく思っているところでございます。

(足立委員)

対象の整備している項目がものすごくいっぱいあって、実際に今度これを具体的なものに落とし込むといったときに、こんなに出来るのかなというのが正直なところなんです。10年間ですから、もう少し絞ってもいいのではという感じもする。人口減少社会なので、コンパクトシティというような形を目指すのですが、ありとあらゆる分野を一生懸命やりましょうみたいな感じで書かれているところがあるので、もう少しポイントを絞ってもいいのかなという感じがしますね。ビジョンだから全部できなくてもいいのですけれども、ただ逆に焦点が絞り込めなくて、今後10年間にこういうところを重点的に整備しましょうというところが見えてこなくなってしまうような気がします。

(高瀬委員長)

その点につきましては、先ほど武者委員からありましたように、最後にそれぞれの人がこういうこととこういふふうな将来になりますよ、という部分を作っていくとたぶん、この中でいらない部分があるかもしれませんが、そこはやってみないとわからないですが。

(河野委員)

現在示されている、取り組みたいことの網羅というのは県のビジョンを示すうえで非常に重要な視点です。けれどもその全部を誰がやるのかという現実問題があるので、やっぱり重点分野の施策の中でも、場合によって優先的に着手するリーディングプロジェクトを設定したり、達成時期を決めるものがでてくる。スケジュールが今は全部並列になっていて、緩急がないので見えなくなっているところだと思うので、おそらく次の段階にリーディングができてきたり、スケジュールの優先順位が示されてくれば、少し緩急が見えてくるのかな、というように思いました。ひとつ質問があるのは、5ページのインフラツーリズム需要増加のところの、「見学会充実」とは何を意味しますか？

(事務局)

見学会ですけれども、道路ではないのですけれど、姫川砂防事務所で砂防のツアーを組んで現場見学などを行っています。そのようなものが道路の面でも出来ればというところで、これから取り組んでいきたいというところでございます。

(河野委員)

わかりました。造りかけではなくて、完成品を見学するものですね。

ひとつの考え方として、最近のインフラツーリズムの潮流で、完成品ではなく、建設している途中のものはその瞬間でしか見ることができないという価値があります。見せ方については安全性担保という課題はありつつも、道のつくりかたや道の重要性を県民に知らしめるという意味も込めていくなれば、何かしらその道を強くしていく過程とか新しい橋梁を架けるのにこれまでになかった技術を、こういうところに使われているんだよってということとか、そういう途中の部分というものをどうやって見せていって、観光という視点ではなくてむしろ教育普及という面からそういう場を作っていくのも、ただツアーを開催するだけではなく、さらに重要な視点ではないかと思えます。あともう1点は、5ページにあるそのサインのところや沿道美化っていう部分と、さきほど無電柱化のところにもありましたけど、景観整備のところがまさにそうだと思いますが、様々な庁内担当部局またがる取組がかなりまだこの中に多く入っていると思います。観光という視点から見ると、それぞれの狭いエリアで良かれと思った景観を皆さんがバラバラにつくり、皆さんがバラバラのデザインのサインを作るために、広域で観光する人たちにとっては、デザインのばらつきがあって余計にわかりにくくなることがあったり、景観に乱れが生じて、それぞれの最適化を図ったのだろうけど、全体としてちぐはぐになるということが生じます。本計画が県のビジョンであることで、各市町村が行う取り組みに対して横串をさせる可能性があることは非常に有用なことであると思うので、デザインの視点などについて、何かしらの統一基準を示して、県全体のそれぞれの市町村の取り組みがきちんと全体で筋道を通ったベストな状態で推進されることを目指す視点が入ってくることが望ましいです。なおかつそこに、まちづくりをはじめとする関連する他の取組との連携の視点というのが、おそらく次の段階で入ってくると推測します。道路の担当のみで実現できる話ではないことが多く含まれていますので、そういうところ

の整理が出来てくると、よりわかりやすく担務が見えてくるといふ気がします。

(事務局)

まず、1点目の見学会の途中の見せ方ですけれども、それぞれ現場見学はそれぞれ行っておりまして、また、県のホームページを使いまして、たとえば造っている橋をタイムラプス等で造っている最中のものを見せたり、あるいはドローンを飛ばしてあげて、普段見えないところから見せるというような取り組みをいま、始めているところです。非常に大事だと思いますので実施できるようにしていきたいと考えています。

それから他の部局との連携、観光の関係とか沿道の美化の関係、道路だけで出来ないものたくさんあると思います。そこについても連携を図るようにしていきたいと思うので、そういった書きぶりができれば少し記載したいと思います。

(三井委員)

3～5ページ共通なところなのですけれども、現状のカバー率とか整備率とか、図表で示していただいています。まだ十分に整備できていない。あるいはカバーがされていないエリアがまだかなり残っているということをもって、今後それに対する整備を進めていくという、根拠になっていると思いますので、いいと思うのですけれども、これを10年間の目標として、これを例えば100%にしなければいけない、ということなのかもしれない、もっと具体的に言えば、あと10%整備されていないものを、この10年で5%は整備しようということなのか、どこまで残っている部分の整備が重要なのかでその政策はかなり違ってくるのではないかなと思うのです。そのあたりをお聞きしておきたい。特に10年後を意識した場合のその着地、先ほども武者委員から出たように、10年後の姿、出来上がりがどうなるんだ、というような部分を示す必要があると思いますし、その姿をイメージしていくためにも、このあたりがただ未整備だとか、30分圏内、あるいは60分圏内がまだまだ全圏にいきわたっていない、ということだけだと、政策のポイントとして、重要性というのがぼやけてしまうのかなというふうに感じるんですけれども。どのくらいを県として考えていらっしゃるのか、まず確認しておきたいと思います。

(事務局)

カバー率等、整備効果の指標についてのご指摘をいただいたところでございますが、今ここにお示したのは、現状としてこういう状況があり、10年後の姿としてこれがこうなりますよ、というような形で、100%というのはなかなか難しいと思うのですけれども、先ほどの予算なども踏まえた中での目標値を、こういう指標によって示していきたいと思っています。

(三井委員)

例えば医療施設の人口カバー率というところですが、先ほども、必要なのは道路の整備だけでなくという考え方もお示しいただいたところもありますけれども、まあ結局現状はどこまで足りないのか、緊急にどこまでやらなきゃいけないのか、さっきの予算との関係もありますし、時間との関係もあるので、そのあたりをやっぱりもう少し括りだしていただく必要がある、それを受けてビジョンにもなっていく気がします。緊急輸送路の関係もそうですし、インターチェンジからの時間的なカバー率、このあたりは10年後というトリニアの駅も出来てきたりするという中、

それをひとつの拠点として、どう道でカバーしていくのかということも、要素として入ってくる
と考えるのです。どのくらい重要度、緊急度があるのかというところは、県としての見解という
か位置づけは、はっきりしたいと思うのです。

(事務局)

道路によって、全て出来るということはありませんので、現状これで認識して、可能なものであ
れば、それをやることによってこう範囲が広がるというようなことは示していけるのかなという
風に考えています。この指標をあげるために全てやるのではなく、他の目的も踏まえてそれをや
った結果によってそのカバー率が増えていくということもありますので、ひとつの目安というも
のでカバー率を挙げておりますので、これだけにとらわれないといえますか、そういう視点を持
っていききたいと思います。

(武者委員)

いま、各委員さんの意見を伺っていて2点ほどあります。ひとつは今、三井委員も言われたよう
な話と近いのですが、要はビジョンの性格からして個々のプロジェクトについてどこまで目標を
定めるか、つまりもっと具体的に言うと、いま言われていたような目標値みたいなものを作るか、
また河野委員が言われたようなロードマップを示すか、私はこのビジョンの性格として、あまり
入るものではないのかなとも思うのですが、ただこうやって挙げたからにはそれなりの責任とい
うのはありましようし、目標値は難しくてもロードマップくらいは示すべきなのかどうか、とい
うのは検討された方がいいのかなというふうに思います。

それから2点目は、結局総花的ではないかのご批判がいろいろあったわけですがけれども、これひ
とつ考え方として、先ほど河野委員がある種公共サインのデザインコードのような話をされました。
こういうのも結局県が本当にすべきこととそうでないことがあると思うのです。私もこのデ
ザインコードみたいなものを県が出したら面白いと思う一方で、長野県の場合は、例えば木曾広
域なんかは広域連合で公共サインやっているわけですよ。だからどういうエリアで、どういうス
ケールでこの事業をやるべきなのか、というのをもう一回もう一歩ずつ、これは県なのか広域連
合なのか市町村なのか、というのを精査すると全体的にもう少し整理が出来るんじゃないかなと
いうふうに思いました。

(事務局)

個々の目標値ですがけれども、今回はビジョンという性格上、細かい目標値を設けるといのは想
定していませんでした。ただお話いただきましたように、ロードマップみたいなものが何か出来
ればということを検討させていただきたいと思います。そうはいつでもどこまでやるのかわから
ないというお話もいただきます。それにつきましては、県の5か年計画というのも同時に作っ
ていまして、それは5年間の計画になっています。そこでは目標値を定めて、取り組むべきこと
を作っていきます。ですので、このビジョンの中で10年間の目標を定めて、そのうち5年間ではこ
んなことをしていきます。というのは県5か年計画の方で少し目標値を出せばなというふうに
考えています。

それからあと、各種取り組みのところですがけれども、今回考えているものをだいぶ挙げさせてい
ただきました。お話しいただきましたように、主体が市町村であるものもあると思いますので、
精査する中で少し記載の方は考えていききたいと思います。

(足立委員)

結局いま論議していることは2つの分野で、それについてビジョンというところのアプローチをしていかないといけないのではないかなと思います。ひとつは長野県全体の高規格道路とかです。これを見ますと例えば大北方面が非常にまだ整備が進んでない。木曾はかなり地形が険しいとかあると思うのですが、そうした中での骨格としての道路整備の目標のようなものをある程度考えなくてはならないです。

もうひとつは、いろいろ今まで重点分野の3項目について論議をしているのですが、これはその道路の持つ属性を強化しましょうという論議です。もっと利便性を高めましょう、そのためにはICTを使いましょうとか、機能アップの話だと思うのです。もうひとつはその属性の中に安全性、これは災害等に対しての強靱化を高めましょう、それからもうひとつは美観で、道路でいわゆる景観のいいものをやりましょうということです。今この3点というのは道路の持つ属性の機能を高めるにはどんな分野があって、それをどうしましょうか、という話だと思います。

で、もうひとつはやはり長野県としての特に骨格の道路はこういうふうな整備が必要だと、これは産業とかです、そのような括りで捉えてアプローチをしていくと分かりやすいのではないかなという感じがしましたので、検討してほしいと思います。

(事務局)

今の二つの視点、県全体の視点と、道路としての属性機能の視点、その辺で捉えていけばというご提案でございましたので、少しその視点で、ネットワークとかあるいは道路の環境みたいなそんな意味なのかなという感じで思っているところでございますので、今のご指摘を参考に反映させていただければと思います。

(高瀬委員長)

それぞれの重点分野の、それぞれのカッコ書きの中をもう少し咀嚼していただければ、良いと思います。他にご意見ご質問ございませんか。

まだまだご意見おありかと思いますが予定した時刻が迫っておりますので、ここで議事は終了したいと思います。・議事進行ご協力ありがとうございました。